

# 生命（いのち）を育む協同の力と、 未来の地域子育てネットワークづくり

森 亜希子（労協センター事業団保育園事業所）  
星 英臣（労協センター事業団保育園事業所）



イエまちネットワーク）をはじめ、コメンテーターの丹羽洋子さん（育児文化研究所）、報告者の清水三代子さん（労協センター事業団・保育園事業所）、安村美由紀さん（労協センター事業団・学童）石郷岡しずかさん（労協センター事業団・在宅保育・あざみ）大森千恵子さん（子ども劇場千葉県センター）

幸前文子さん（市川育児サークルネットワーク）、田中淳子さん（千葉市子どもルーム）、森田真希さん（子どもとお年寄りの家：鳩の翼）、菊池貴美江さん（芸術教育研究所）の方々報告者8名、コーディネーター、コメンテーター、千葉大学の学生10名、一般3名、団体16名の計39名で開催されました。

この分科会の特徴としては、出席者全員が参加するべく先ずは肩書きの無い大きなネームプレートに好きな色で書いたものを、首からさげ参加者全員の顔が見えるように会場は机をはさんでの参加でなく、椅子をサークル状にしてすわりました。

核家族の増加・地域のつながりが希薄化している現代社会。地域での居場所がつかず、1人で子育てに悩み、子どもと上手に接することが出来ず。虐待・過保護などの問題が生じ、子育てに喜びを見出せない親が急増しています。ゆとりある、楽しい子育てを目指し、「子育ての協同化・ネットワーク化による未来の地域づくりに励みましょう！」をサブタイトルとして労協センター事業団の保育園事業所で実行委員を集い分科会を意義あるものにしようと準備してきました。

コーディネーターの山田清さん(NPO人

## ■コーディネーター

山田清( NPO人イエまちネットワーク )

## ■報告者

労協センター事業団保育園事業所

・清水三代子( 保育園事業所 ) ・安村美由紀( 学童 )

・大木恭子( 児童会館 ) ・石郷岡しずか( 在宅保育あざみ )

大森千恵子( 子ども劇場千葉県センター )

幸前文子( 市川育児サークルネットワーク )

田中淳子( 千葉市子どもルーム )

森田真希( 子どもとお年寄りの家「鳩の翼」)

菊池貴美江( 芸術教育研究所 )

## ■コメントーター

丹羽洋子( 育児文化研究所 )

参加された人がどこの出身なのかの分布を日本地図にマーキングすることもしました。

コーディネーター山田清さんより「当事者参加型らせん数珠つなぎ押し出し連鎖方式」というプログラムをもとに分科会が進行されました。それから、直径15cmほどの糸玉を使い、自己紹介をしながら次の人にその糸玉をおくりました。参加者全員が報告したときには、床上には放射状に幾重にも転がり紡ぎあげら、最後に1人1人の手にした糸を高く持ち上げると、人の輪と共に大きな糸車が出来上がり“オオー!”と言う声も聞かれました。自己紹介の中では、今日の分科会に参加するにあたっての目的や、悩みなどを出し合い、会の後半の議題に繋がりました。

そのなかから『情報をどうつかんで、どう伝えていくか』という悩みが聞こえ、

(一) 森田真希さんは、今ある情報・状況をただ伝えるのではなく、周りにある環境を利用しどう伝えていくかという(きっかけ)をつくる事が大切である。と主張されました。

(二) 清水三代子さんは、地域の核家族化が進み、近所の知り合いに会いたくない為、付近のサークルなどを避け、遠くのサークルなどに、参加する傾向がみられる事を指摘されました。

(三) 石郷岡しずかさんは、各地域の商店街の空き店舗を利用し人々のコミュニケーションの場を子育てサークルなどに展開し、地域に住む人々の思いを受けとめるところから始めてきたいと、意見されました。

(四) 田中淳子さんは、子どもルーム(学童)の親のネットワークが学童保育の充実・改善をめざす運動をし、キャンプや親同士で交流の場などの行事をすることによって情報交換が親同士・親と指導員間のコミュニケーションになっていくと述べました。

このように各々が意見しあって午前の部が終了しました。

午後の部は休憩中に宿題がでましてKAGEMI図(過去・現在・未来)を作成しました。

KAGEMI図は自分の生い立ちから現



在までを一つの線で表しその間における出来事を記し、現在を分岐点とし明るい未来／暗い未来を図に表したもの。これはコーディネーターの山田清さんが、議論するなかで使用した図です。

午前使用した糸玉で、午後一人一人が発言することができました。

皆さんそれぞれの生い立ちがありましたが、未来の話の所では、明るい未来において仕事や家庭の向上を望む人が多く、暗い未来においては、ケガ・事故などによる現状の低下を考える人が大半を占めた。視野を広げて日本の政治・経済の弱点を訴える意見もあり、報告者の方々から現在の状況と、これからの課題を聞くことができました。事業として成り立たせる苦勞はどのようなのかという質問もあり、「行政との関係が難しい。」「助成金ではコストを上回りまだまだ、ボランティアでまかなっている。」「立ち上げる前にきちんとコストを算出することが大事である。そのためにもいろんな経験を積んでいる人材を集める事たり一芸ボランティアを募集して輪を広げていくことでなりたっている」などの意見が出されました。

これからに向けてのメッセージでは、

- \* 乳幼児から小学校低学年までを受け入れられる運営をめざしたい
  - \* 働く人の権利の保障（ベビーシッター etc）周りの人たちと一緒に伝えていきたい
  - \* 母親が悩む女性は出産で仕事を一線離れる事が現代の少子化につながっている。
  - \* 子育て以外に自分の世界を広げ子育てしていない人たちにも伝えていきたい
  - \* 子育て支援メッセや電話相談メディアから避け「地域で子育てしてみたい！！」と思ってもらえる活動をしていく
  - \* 自分の未来・まわりの未来・国／世界の未来を広い視野で考えると次世代を育てていく築いていくことが大切
  - \* 学童の指導員を確立させたい
- などがありました。

最後にコメンテータの丹羽さんから、「分科会が子どもと地域を考える場がもてたくさんの仲間と議論できずばらしいが当事者がいない事と行政の人がいない事が残念であった。」「親と子の現状をつかみ進んではいるが、まだまだ手をつなげていけてない子育てに一生懸命すぎて思うようにならず、思いはあっても実態は、閉塞感が強くなっている。物質は豊かだが自然が貧しいそんな中での子育て、そして核家族／生活経験が乏しいので情報に頼る。これからもっと安全な手のつなぎ方ができればいい。」

などたくさんコメントが述べられました。

これから何をつくりあげていくかが参加者それぞれ違うものの、多くのヒントを得られた分科会となったのではないのでしょうか。

分科会の中で報告者等の方々を紹介が十分に出来ませんでしたので、レジュメ等か

らここに紹介したいと思います

### ●山田清さん(人イエまちネットワーク)

1974年法政大学工学部建築学科卒建築設計事務所を経て1998年人イエまちネットワークを設立。建築設計と共に従来から取り組んできたまちづくり活動を展開する。1994年から月に一回の『おぎくぼ塾』を開催し、まちづくりを中心にした情報ネットワークを作るほか、市民向けのセミナーやワークショップの企画・講師を担当。現在は「地域調べ」「遊び場づくり」「引きこもり・不登校対応」を柱とした子育て支援事業や、オーナーと一緒に店舗や住宅をつくるセルフビルドにも取り組む。

### ●清水三代子さん(労協センター事業団保育園事業所)

保育園事業所の事業は、病院で働く母親を対象とした院内保育園として、東京都老人医療センターの委託「ひまわり保育園」の開園より始まりました。その後東京都多摩老人医療センターより「たんぼぼ保育園」、日本大学医学部付属板橋病院より「日大保育所」の委託を受け、今日まで3園を運営してきました。一方、女性の多様な働き方に対応した利用しやすい保育や、核家族化の中で子育てに一人悩む母親の増加など、潜在的なニーズを掘り起こし、在宅保育支援サービス事業「アザミ」を立ち上げました。さらに、子育て支援に関する講習会の開催を行うなど、地域での関わりを深めてきました。

東京都児童会館から受託した、「のびのび広場」の運営では、親子の遊び場に溜まらず、保護者の交流、情報交換の場所としての役割も担っています。今年度より委託を受け開設した「板橋区立板橋第一小学校学童クラブ」では、学童クラブの運営に加え午前の空き時間に「乳幼児の親子を対象とした、「のびのび広場」を始めました。足立区の青井兵和学童クラブ

は、これまでの保育園事業所の実績を生かし、学童保育に加え「子育て広場」を拠点として、高齢者も参加する地域と密接に関わる場所作りをめざしています。

### ●石郷岡しずかさん(労協センター事業団保育園事業所)

少子・高齢化が進んでいるここ数年、子育てを巡って、社会、地域の中で様々な問題が広がっています。支えあえる地域が無く孤独な子育て家庭を巡っておこる虐待や育児ノイローゼ。こんなつらい子育てが、かつて歴史の中であったでしょうか。

戦後、貧しくても粗末な衣服を着ていても、空き地や道端で虫を捕ったり、花を摘んだり生き生きと過ごした子ども時代は地域が子どもを見守り、隣組のおばちゃんやおじちゃんに怒られたり励まされたりしながら成長してきた。今の社会は便利で、生活水準はめざましく発展してきているが、殺伐として寂しさが感じられます。

子どもたちの笑顔、そして両親とともに泣いたり、笑ったり生き生きと成長することが、これからの社会の中で求められています。今こそ私たち子育て関係者や、住民、行政が身近な地域で若いお母さんたちのこそだてを手助けする仕組みが必要になっているのではないのでしょうか。

### ●幸前文子さん(市川育児サークルネットワーク)

#### 【いくじネットの成り立ち】

1998年10月 市川市内で活動する子育て(親育て)サークルに声をかけてサークル交流会を行う(6サークル参加)

1998年11月 交流会に参加したサークルでネットワークを結成。年数回、スタッフ交流会を開いて、遊び

## 第2分科会「生命(いのち)を育む協同の力と、未来の地域子育てネットワークづくり」

の紹介や悩み事の解決策を一  
緒に考える場を作る。合同で、  
野外イベントや勉強会も開く。

- 一. 年3回 (5月・2月・2月)勉強会・交流会  
も兼ねる
  - 二. 年3回 会報作成 活動紹介と子育て  
情報を掲載。市内子ども館などで無料配  
布
  - 三. 地域FM(市川エフエム83MHz)にて  
毎週火曜日10:15~10:45子育て応援  
番組「育児ネット通信」を担当
  - 四. 月1回心理カウンセラーを囲んで「自分  
探しの会」を開催(託児付き)
  - 五. 市内3ヶ所で1歳児フリースペースを開  
催外で遊ぶには小さすぎる子どもと親  
に遊び場と子育て仲間作りの場を提供
  - 六. サークル立ち上げ支援(場所の確保・会  
員募集のPRの協力)
  - 七. サークル活動支援(講師、ボランティア  
の紹介遊びの紹介)
- 今年度は、助成金を頂いてサークルネットモ  
デル事業に取り組み中。

### 田中淳子さん(千葉市子どもルーム)

学童保育の子ども達は、自分の意志で通える  
子でなくてはなりません。学童がつまらないと  
ころであれば通って来られません。一人ひと  
りの子どもたちが自分の居場所になれるよう  
指導員たちは毎日の生活作りを工夫していま  
す。子ども達が、「明日もしたい」と心から思  
える「あそび」があるか、一緒に遊んで楽し  
い、安心できる「仲間」がいるかという点をポ  
イントにして子ども達を見守っています。

いま子ども達が群れて遊ぶ姿が消えかかっ  
ている地域社会ですが、学童保育では常に子  
ども達が大勢いて、2.3人で始まっても大勢  
の遊びにふくれあがります。仲間に事欠きま  
せん。しかも異年齢集団ですので学年を超え  
た子同士のふれあいが多く、様々のものを学

んでいます。「人が大好き」という子達に成長  
しているよう思えます。貴重な育ちの場では  
ないでしょうか。

### ●森田真希さん(鳩の翼)

【プロフィール】

東京都練馬区出身。保育士。上智社会福祉専門  
学校卒業と同時に結婚。病院、保育所、学童保  
育に勤務後、2001年4月[鳩の翼]代表理事。  
[鳩の翼ケアプラン相談所][鳩の翼デイホーム  
][鳩の翼子どもの家]の3事業を推進。

### ●大森智恵子さん(子ども劇場千葉県セン ター)

【団体概要】

名称:特定非営利活動法人子ども劇場千葉県  
センター

所在地:千葉市中央区弁天町74-2

代表者:理事長 武智多恵子

目的:千葉県内の子どもたちに対して、社会参  
画の機会の拡充をはかるとともに、子ど  
も劇場・おやこ劇場をはじめとする千葉  
県内の子どもと芸術・文化に関する諸団  
体の連絡、援助、交流等を行い、子ども  
たちの生活文化環境をよりよくしていく  
ことに寄与することを目的とする。

会員数:団体正会員32団体、個人正会員22人、  
賛助会員61人、ボランティア会員100人

主な事業:



- ◆舞台芸術・文化・表現活動の普及推進事業
  - ①『子育て応援シアター 2003』の開催
  - ②三世代文化交流「ようこそ先輩」
  - ③平田オリザさん「対話劇ワークショップ」
- ◆子どもの居場所・社会参画事業
  - ④チャイルドライン千葉「こども電話」
  - ⑤こどもの日チャイルドライン
  - ⑥子どもの声を社会に届ける諸活動
- ◆子育て支援事業
  - ⑦チャイルドスペース(たまり場)の建設
  - ⑧「幼児とお母さんの表現あそび」
  - ⑨子育てスタッフ・ファシリテーター養成講座
  - ⑩「ママラインちば」
- ◆情報出版事業
  - ⑪情報誌「ぐるっと房総」年4回発行

### ●菊地貴美江さん(芸術教育研究所おもちゃ美術館)

#### 【芸術教育研究所の活動】

##### 研修活動

小学校の図工・音楽の教師、幼稚園の教師、保母、保健婦、児童・高齢者福祉施設の指導員など、芸術・遊び・福祉文化に関わる指導者のために「芸術教育学校」や「おもちゃコンサルタント養成講座」「高齢者の遊びデザイナー養成講座」など、シンポジウム、セミナー、講座・講習会の実施をしている。

##### 研究活動

多世代社会において、赤ちゃんからお年寄りまでの文化向上のため、芸術文化、福祉文化、遊び文化の三大テーマに関連する研究活動を展開。さらに、絵画、造形、音楽を中心とした表現活動の研究活動を外郭団体の「芸術教育の会」と共同研究し、幼稚園・保育園・小学校等の実践活動を支援している。また、研究成果は専門書として刊行し、乳幼児教育、児童教育、高齢者福祉、世代間交流、子育て支援などの関係者に向けて広く紹介している。

##### おもちゃ美術館

見る・つくる・調べる・あそぶをテーマに世界100カ国20万点のおもちゃを収蔵。「世界の木製おもちゃ展」「世界の赤ちゃんおもちゃ展」などの企画展を年に2回開催。自然物やリサイクル材料を使つての手作りおもちゃ教室や世界のおもちゃを貸し出すおもちゃライブラリーも併設。さらに全国各地の高齢者福祉施設、障害児施設、医療施設に姉妹おもちゃ美術館の設置、また保育園や保健センターでの「世界の子育ておもちゃ展」を実施し、地域と施設のパイプ役を果たしている。

##### 福祉文化活動

「お母さんが赤ちゃんを抱っこしていきたくなるような老人ホーム」をテーマに、数々の世代間交流の実施。さらに予防福祉の視点から「いきいきデイサービス」の支援財として「リハビリおもちゃ」「ヒーリングおもちゃ」の研究を展開している。また、地方自治体や公共施設、民間企業、高齢者福祉・児童福祉施設などの協力事業で、遊び、おもちゃ、芸術文化などの研究活動を展開している。

##### (参加者の感想)

- ・若い方の考え方、子供の教育にたずさわっている方々の話を聞けたことが良かった。これから地域の若いお母さん方も関わっていけたらお互いにプラスになる面が出てくるのではないかと思います。高齢者はあまり若い方に口出ししてはいけないと思っていた自分に反省させられました。(60歳女性)
- ・参加者全員が発言できた点は良かった。しかし、実際に現在子育てをされていて困っている人、行政の言い分などマイナス面がほとんど出てこなかったのが議論に発展性がなかった。(24歳女性:労協センター事業団)

